

日本大学芸術学部



校友会報

平成23年10月発行
2011年秋季号

87

C O N T E N T S

学部長インタビュー

学部長・副総長・名誉会長 野田 慶人	3
新 会長・副会長（平成23年度～平成25年度）	5
新 役員（平成23年度～平成25年度）	6
平成23年度校友会総会	7
第5回日藝賞受賞記念講演	8
皆さん今日は！	9
「第11回福岡江古田会アート展」開催	11
第15回福岡江古田会／第12回宮崎江古田会総会	12

山形江古田会総会（設立20周年記念）	13
第5回秋田江古田会総会／ 第3回ふくしま江古田会総会	14
青森江古田会総会	15
佐賀江古田会総会／熊本江古田会総会	16
北海道江古田会総会	17
学科ニュース	18
校友会だより	22
江古田キャンパス整備事業募金報告／編集後記	23

料金別納
郵便

NU ART FES

日芸校友会のみなさま

11月3日から5日まで
日芸祭が開催されます

めっきり秋めいてまいりましたが、校友会員のみなさまはいかがお過ごしでしょうか。さて、今年も日芸祭の季節がやってまいりました。本年は11月3日（木）から5日（土）までの3日間、江古田校舎で開催されることとなりました。今年は日本大学芸術学部創設90周年という節目の年でもありますので、ぜひ江古田校舎まで足を運び、現役生のエネルギーを感じていただきたいと思います。また毎年恒例の校友会コーナー（お休み処）を設けております。みなさまと日芸祭でお会いできることを楽しみにしております。

NU ART F

学部長インタビュー



日本大学芸術学部学部長・日本大学副総長
日本大学芸術学部校友会名誉会長

野田 慶人

綾部 三期目の学部長就任おめでとうございます。加えて、日本大学の副総長になられ、ますますお忙しいと思われますね。

野田 綾部さんも校友会会長二期目ですね。おたがいに、「がんばろうニッポンいまこそひとつにニチゲイ」でゆきましよう。

綾部 3月11日は江古田校舎にいらしたんですか？

野田 放送学科の二期の面接試験中で私は、自分の担当分を終えて、南棟三階のベランダにいました。

とても長い揺れに感じて気がついた時には中庭に、どうやって階段をおりたのか記憶にありません。

綾部 新しい校舎が完成してよかったですね。旧校舎のままでは耐震性などに問題があったのでしょう。

野田 ええそうです。

綾部 それでは万全でしたね。

野田 いや、それが水や食料、寝具の備えなどが充分ではありませんでした。今、早急に整えるよう努力しています。

綾部 早速東北の支部へお見舞の電話をかけていただいて、ありがとうございました。校友会では、特に被害の大きかった太平洋岸の四県にお見舞金を送りました。さて、これから三期目の3年間でスタートします。学部長の三期目に向けての抱負をおきかせ下さい。

野田 これからの僕の課題は三つあります。ひとつは、財政面での立て直しです。新校舎建設の為にぎりぎりの所まで借金をしましたが、これを返済しながら学部を維持・

発展させてゆかなくてはならない。文部科学省の補助金も年々その条件が厳しくなってゆくし、このまま放っておいてはいずれ赤字になってしまいます。

綾部 大変な時期に経営感覚をお持ちの学部長で良かったです。

野田 僕は放送の中でも、一番ビジネスに関係のある広告が専門ですから、いやでも経済や経営に関する勉強をしなくてはならない。しかし何よりも心強いのは、事務局の方々と理解し合えて、経理長やら局長たちと一緒に協議し、話し合いながら進めてゆくことができる点です。

綾部 もう一つの課題とは？

野田 今の世の中で、学生の学力の低下や教養不足がよく言われていますが、芸術学部では、一般教養や学科の壁を越えた共通専門を一つにした「芸術教養課程」という一つの領域をつくりました。芸術の教育なのだから、もっと魅力のある基礎科目にしたい、もっと魅力のある教養科目にしよう、ということ念頭において考えました。

綾部 私たちの時代も、高校の蒸し返しみたいな一般教養は苦痛でした。

野田 しかも一、二年生で詰めこむようなやり方はやめようと、低学年にむりやり取らせるのではなくて、逆に専門をある程度やってから、それに関連して、心理学だとか法

学だとか、必要を感じた時点で学べるように、四年生までに取れるようにしよう。

綾部 昔、(パンキョウと) 軽んじられていた一般教養が、芸術ならではの芸術教養課程となるのですね。ところで学部長あれはどうなっていますか。江古田と所沢とで四年間学ぶのではなく、江古田校舎で四年間学ぶというのは？

野田 ああ通年化ですね。所沢校舎と江古田校舎とで、四年間の教育が分断されているという不便さや、近年どこの大学も都心にもどっている、という現状があります。それに、一年生から四年生までが、一緒になって切磋琢磨する環境、渾沌とした中で、刺戟しあうような環境の方が、芸術には相応しいのでは、との思いもあります。

綾部 校友の思い出の中では、狭い所で足りないものばかり、そこを工夫で乗りこえて、楽しかった四年間がよく語られます。

野田 江古田での通年化教育の実現には、施設・設備の不足、学部の財政的体力などさまざまな問題をクリアしなくてはならないので、数年を要します。すぐには実現できないけど、しかし僕が基礎を作っておくことはやっておこうと思っています。

綾部 野田学部長は二期六年間で、新しい意欲的な取組を実現されてこられました。日芸賞もその一つだと思います。今年で何回目になるのでしょうか。

野田 二年目から始めたので今年

で5回やりました。最初は学生・教職員・校友会支部の投票だけで決めていましたが、それではどうしてもマスコミ等で目立ってる人の人気投票みたいになりがちで、三年経って少し見直しをしましてね、二名のうち一人は投票で、もう一人はノミネートされた人の中から、選考委員で決めよう。これまでは、社会で活躍する人と母校との接点が希薄でした。日芸賞ができてからは、受賞者との距離がぐっと近くなりました。客員教授になって下さる方もありますし、色々と波及効果も出てきています。

綾部 校友会長として一つお願いがあります。これも昨年初の試みでしたが、ホームカミングデイをこれからも、何年おきかで続けていただけないでしょうか。

野田 ああ、他学部では前から行なわれてきたことです。教職員も反対ではないので、毎年という訳にはゆきませんが、僕の任期中に、

もう一度やるように懸案事項にしておきましょう。

綾部 母校に帰って、新しい校舎の見学ということだけではなく、校友が旧交をあたため、同窓会開催のきっかけにもなります。

野田 江古田通年化教育をはじめ、理想的な芸術総合教育の充実をはかって行くまでには、まだまだ時間がかかると思いますが、学部の皆さんのコンセンサスを得て、スピードアップできるころはしたいと思います。その意味では大変な三年間になりそうです。新しいことをやりながらも、必要ところは手直しを繰り返し、がたがたもするかもしれませんが、みんなで一緒に、円満に、また知恵を出しあってやってゆくつもりでいます。

綾部 本日は夏休み中の貴重な時間をいただき、いつも通りの懇切丁寧なご説明をありがとうございました。

まとめ・綾部



新 会長・副会長(平成23年度～平成25年度)



会長

綾部 東洋子(演劇40卒)

日本大学校友会・副会長・広報委員長
日本大学・評議委員
影絵グループ あけびの会主宰
2007年 緑綬褒章



副会長

相沢 睦彦(放送56卒)

1959 神奈川県横須賀市生
1981 芸術学部放送学科卒業
ウッドオフィスグループ株式会社代表取締役
協同組合・日本映像事業協会 雇用就職委員
趣味 ゴルフ／ジム通い



副会長

豊島 紘武(演劇40卒)

1966 演劇学科卒業
日本テレビ放送網(株)入社
2002 日本テレビ放送網(株)定年退職
演劇学科常任幹事
2005 演劇学科常任幹事
2008 副会長就任
所属 青森支部江古田会・演劇江古田会・殺陣同志会OB会
日本テレビ美術OB会



副会長

原 直久(写真43卒)

1946 千葉県松戸市生
1969 日本大学芸術学部写真学科卒業
1972 日本大学芸術学部助手
1976-7 文化庁派遣在外研修員としてフランス・ドイツで研修
1984-5 日本大学長期派遣研究員としてパリを中心に研究活動を行う
1994- 日本大学芸術学部教授
現在 日本写真芸術学会会長 日本写真学会会員
日本映像学会会員 日本写真協会顧問
全日本写真連盟理事
新写真派協会(写真学科卒業生の会)会長

新 役 員(平成23年度～平成25年度)

役員

○名誉会長

野田 慶人 (放49)

○顧問

佐々木照男 (写29)

久保 進 (演33)

八木 信忠 (映34)

一ノ瀬邦夫 (放36)

○会長

綾部東洋子 (演40)

○副会長

豊島 紘武 (演40)

原 直久 (写43)

相沢 睦彦 (放56)

○監事

箭内 民生 (文45)

渡辺 圭一 (音51)

○相談役

三浦清之助 (専24)

旧制

○常任幹事

櫻井理治夫 (専25)

写真学科

○常任幹事

小泉 定弘 (41)

●鈴木孝史 (48)

田中 光子 (53)

西垣 仁美 (58)

○幹事

萩原 行子 (32)

錦古里三四生 (32)

松田 義弘 (43)

南岡 秀男 (46)

小野寺榮一 (54)

鯉江 充 (54)

鈴木 隆史 (58)

大室 朋信 (H8)

田中 里実 (H16)

映画学科

○常任幹事

附田 博 (31)

阿部 靖夫 (44)

浦井 孝行 (45)

宮澤 誠一 (46)

永井 寛 (49)

●鳥山正晴 (59)

○幹事

後藤日出磨 (34)

村田 定之 (37)

中川 京子 (53)

須藤 典彦 (57)

宮川 真里 (58)

千葉 実 (62)

齊藤 裕人 (H1)

奥野 邦利 (H4)

上倉 泉 (H5)

藤森 美広 (H13)

美術学科

○常任幹事

高松 豊 (41)

大槻 孝之 (53)

●福島唯史 (63)

設楽 俊 (H18)

○幹事

根本 忠夫 (38)

岩野 弘之 (42)

濱口 泰己 (43)

五島三子男 (46)

勢ノ 修 (46)

有地 好登 (46)

鞍掛 純一 (H1)

笹井 祐子 (H1)

小橋 克史 (H1)

高澤 真徳 (H16)

音楽学科

○常任幹事

田口 順一 (33)

綿村 松輝 (38)

加藤 明 (45)

今泉 久 (50)

清水 泰博 (54)

●川上 央 (H7)

○幹事

坂田 精孝 (33)

松井 保雄 (47)

織原秀次郎 (51)

小川 哲夫 (55)

田代 幸弘 (56)

白井 隆子 (56)

田村 和夫 (59)

西尾 敦子 (H1)

大内 国晴 (H2)

文芸学科

○常任幹事

河野 直樹 (50)

武富佐知子 (50)

吉田 克也 (51)

●青木敬士 (H4)

○幹事

平岩 昭三 (26)

立石登美雄 (27)

山平 泰輔 (35)

生沼 剛 (41)

若女井光男 (45)

鈴木 邦和 (46)

清水 正 (46)

小島 良隆 (51)

大塚 実 (53)

上田 薫 (62)

谷村 順一 (H9)

演劇学科

○常任幹事

向瀬 俊春 (48)

大久保恵児 (51)

田代 利之 (53)

●小林直弥 (H3)

○幹事

杉野 一美 (38)

梅本 正明 (40)

服部 晃一 (44)

沼田 憲平 (47)

原 一平 (48)

柴田真由美 (59)

橋本 芳孝 (H1)

片岡佐知子 (H9)

山口 英峰 (H13)

木村光太郎 (H13)

杉山 陽洋 (H17)

森 友樹 (H18)

放送学科

○常任幹事

松井 篤 (59)

●金 龍郎 (59)

茅原 良平 (H13)

○幹事

横山 隆治 (34)

深井 徹 (37)

山口 康義 (40)

峰崎林二郎 (43)

清水 邦彦 (44)

間瀬 博美 (45)

橋本 孝良 (46)

森田 雅行 (50)

八巻 潔 (60)

デザイン学科

○常任幹事

長坂 亘 (34)

稲垣 進一 (35)

片岡 義和 (52)

●木村政司 (53)

長瀬 浩明 (63)

○幹事

中島安貴輝 (40)

桑原 淳司 (49)

肥田不二夫 (51)

岡崎 誠 (54)

南 渉 (54)

小野田行雄 (55)

佐藤 徹 (H2)

西原 大司 (H3)

石田純之助 (H7)

新ヶ江友也 (H9)

布目 幹人 (H11)

●は、学内責任者
() 卒業年度



平成23年度校友会総会

平成23年度日本大学芸術学部校友会総会が7月16日（土）午後5時より芸術学部内大ホールにおいて開催された。総会は綾部会長の挨拶、続いて議長に小泉定之氏（写41卒）、副議長に南岡秀男氏（写46卒）、書記に西尾敦子氏（音平成元卒）を選出、議事に入った。議長より総出席者数87名、委任状1814名、したがって会則10条により会は成立する旨の報告があった。

緊急動議として、役員改選が行われるということで会場を封鎖してほしいとの意見があがった。

これについて議論し参加者の賛否を挙手で取ったが閉鎖せずということで決定し議題へ進んだ。

会務報告（綿村常任幹事・総務）
決算報告（宮澤常任幹事・財務）
監査報告（渡辺監事）
予算案審議（宮澤常任幹事・財務）
といずれも原案通り拍手を持って承認された。

推薦校友について。豊島副会長よ

り橋本與志紀氏の紹介がなされ会員の賛同を得て承認された。

役員改選について。第15条により会長・監事の選出に入る。議長より監事は引き続き渡辺氏・箭内氏にお願いしたいとの提案があり、全員の拍手でもって決定した。

会長選挙について。綾部東洋子現会長と吉田克也氏（文芸51卒）武富佐知子氏（文芸50卒）の3人が推薦された。吉田氏は辞退された。

推薦された2名、綾部東洋子氏、武富佐知子氏の3名の所信表明が有り、選挙はルールにのっとり厳粛に行われた。選挙の立会人としては、総務の綿村氏、向瀬氏、鳥山氏、片岡氏を依頼した。

投票の結果、投票総数87票。綾部東洋子69票、武富佐知子16票、白票2票。その結果、綾部東洋子が会長と決定した。

新会長は、皆さんの善意、自発的に行いで校友会活動がスムーズに行わ

れることを希望し、ボランティア活動を目指す。と挨拶をされた。

引き続き学生食堂にて懇親会に入った。

副総長である牧村正治氏の挨拶、齋藤正道校友会事務長の挨拶、野田慶人学部長の挨拶、名誉顧問である佐々木照男氏の乾杯で始まった。

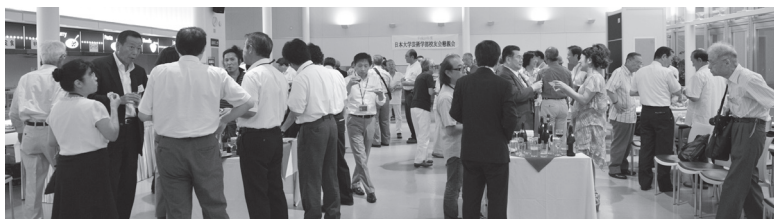
懇親会では、先程推薦校友の承認を頂いた橋本與志紀氏の紹介、学内執行部、課長職以上の皆さんにもご出席頂き、時にカラオケが始まったり、祝の宴が入ったりで楽しいひと時を過ごした。

宮城江古田会会長である塚崎氏（写真42卒）に東日本大震災の様子を語って頂き、三本締めで会を終了した。

平成23年度（2011年度）予算

収入之部		
勘定科目	摘 要	金額（円）
前受金取り崩し	前受金取り崩し	19,905,000
会費収入	5,000円×299名（4年生）	1,495,000
収入利息		100,000
雑 収入	総会懇親会会費・新年顔合わせ会費 等	500,000
合 計		22,000,000

支出之部		
勘定科目	摘 要	金額（円）
総 会 費	懇親会	650,000
総会議費	常任幹事会・総会議	400,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤・ガムテープ 他	50,000
事務用品費	ファイル・コピー用紙・事務用品 他	60,000
通 信 費	会報発送（在校生・卒業生） 審議会・会費請求切手	5,000,000
補 助 費	学科同窓会・幹事会・総会・芸術祭・卒業生を送る会	480,000
寄付分担金	本部校友会分担金	300,000
活 動 費	学生諸活動支援	150,000
印 刷 費	会報・総会・幹事会・終身会費請求書 他	3,500,000
人 件 費	事務局員給料・アルバイト代・人材派遣	4,500,000
法定福利費	労働保険・社会保険	700,000
交 通 費	事務局員通勤定期代 他	200,000
租税公課	利子税	40,000
機器維持管理費	メンテナンス及びホームページ改良 コピー機リース（202,080円）	2,000,000
本部役員会費	年会費（本部副会長5万・常任委員2名各3万・委員3名各2万）	170,000
交 流 費	組織拡充（各江古田会との交流）、 各種校友活動への後援 他	2,500,000
減価償却費		
雑 費	会報取材費・貸金庫・スタジオオマ イデザイン料 他	800,000
特別会計	芸術学部90周年行事（11月19日）	500,000
合 計		22,000,000



第5回日藝賞受賞記念講演

「私の仕事から」 林真理子



6月13日（月）東棟EB1教室に於いて14時40分より記念講演が開催された。

学部長より、今年度から客員教授になって頂いたことを併せて紹介された。林真理子さんに刺激を受けて、「こんな人になりたい」という思いを抱く

ことが大事だと挨拶された。

林真理子さんは、デビューして30年。

江古田の風景も一変してしまった。当時日芸には俳優も沢山いてキャンパスが華やかだった。なにより常識では測れないムードがあった。

しかし、4大卒の女子には全く就職がなく上池袋の四畳半、トイレ共同、風呂なしのアパートに住み、1日1800円のアルバイトから始め、コピーライター、文壇へと進んだ。

ご自身が健康で元気に動きまわれ、また、意地悪で想像力が豊かであること。書いていて夢中になれる瞬間があり、それが歓びとなると受講生に語られていました。

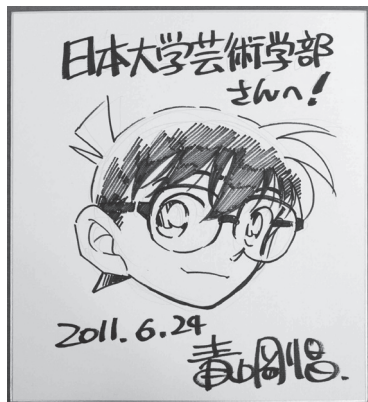
日々エネルギーに文筆活動をな

さっている林真理子さんだが、アルバイト時代に、よく貸本屋で本を借りて夢中で読んだあの頃が、一番の至福の時間で、どんな時間も無駄ではないと言われたことが印象的でした。

最後は学生との質疑応答で講演会は終了した。



青山剛昌



©青山剛昌／少年サンデー

6月24日（金）大ホールに於いて14時40分より記念講演が開催された。

最初に学部長から大いに刺激を受けましょうとの挨拶があり講演会が進行した。

壇上には、青山剛昌氏、恩師の一人である岩野教授、在学中所属していた「熱血漫画根性会」の先輩である阿部ゆたか先生、現在部会の顧問である青木准教授、在籍の学生2名で質問形式が始まった。

入学当時は、絵の先生になりたかったが、自分の絵が動くことに感動するアニメーターになりたくて願いの「熱血漫画根性会」に入った。

なんとといっても学生達は、「名探偵コナン」に日々アイデアを構想し、作品を生み出していくことに大変興味があ

り、これからのコナンは？ などなど質問は尽きなかった。

「漫画・アニメは自分の考えをストレートに表現が出来る手段であり、日藝は漫画家となった原点である。また漫画家は、きつい仕事だ、と思いますが、しかし、楽しい。目指す限りは相当な覚悟を持って目指してください。」と言う在校生へのことばが印象的でした。

終了後、大ホールの入口には、沢山のファンが待ち構えていた。



皆さん今日は！

●橋爪輝雄(旧制15年度卒)

昨年卒寿を迎えました。文字通り九十爺いとなり至極、健康で毎日を過ごしております。会員の皆様の健康と幸せをお祈りしています。

●中根晃彦(旧制22年度卒)

3年以上前から慢性じん不全となり入院しており、残念ですが欠席いたします。在校中はよき師、よき友に恵まれ楽しい戦後の学生生活でした。総会のご盛会と母校の繁栄をお祈り申し上げます。

●水谷康雄(旧制22年度卒)

昭和24年中日新聞社入社。名古屋、大阪、東京勤務。社会部、スポーツ紙専門を経て、中日スポーツ総局長。昭和59年定年後、関連会社設立。代表取締役。平成21年6月82才で退社。

●有馬朝子(旧制23年度卒)

老令のためでしょうか。体調が気になり、外出をひかえています。で、欠席させていただきます。けれど江古田時代を思い出すと、人生の中で一番楽しい時代だったとなつかしいです。

●新井瀧緒(写真学科28年度卒)

埼玉読売写真クラブの400名の指導及び運営にたずさわると共に、大東文化大学OPCを始め読売文化センターの講師をつとめ、私的には春日部に写真塾を開設し写真活動をしています。今年で79才になりますが、まだまだ頑張るつもりです。

●日高勝彦(写真学科33年度卒)

霞ヶ浦大山で仲間と水陸両用ウルトラライト飛行機を組み立て、週末は飛んでいます。数年前から産学協同組織、水上飛行機研究会で研究を続けています。将来まず、2人乗りのコンボジットの水陸両用飛行機の製作が目標です。

平成23年度総会返信の近況報告を掲載いたしました。無断で掲載させて頂きましたことお詫びいたします。(順不同)()内は学科卒業年度です。

●神谷典夫(写真学科38年度卒)

東日本大震災で被災された方達には心から御見舞申し上げます。73才、年の半分は旅に出ています。71才の家内ともどもフットワークよく秘湯巡りを楽しんでいます。60才代の10年、6回も自転車ふたり旅を楽しみました。

●山中誠二(写真学科51年度卒)

今回の震災・原発事故により、観光地である奈良は客の減少という影響を受けました。特に外国人観光客がピタリと止まりました。春のシーズンが終わり、最近やっと人が動き出した感じがします。奈良も何度も災害・人災に破壊されて、復興しました。東日本ガンバレ。

●木下麻衣子(写真学科平成16年度卒)

時々江古田駅を電車で通りますが昔とまったく変わった風景におどろいています。また下車して散歩でもしてみたいです。

●石井伊吉(映画学科33年度卒)

相変わらず、元気にやっています。仕事先で先輩、後輩によく会います。誇りに思っています。

●山野令子(映画学科56年度卒)

4月に夫、山野洋介とふたり展を鹿児島ギャラリーで行ないました。夫は写真、私は日本画を描いています。

●弘田美奈子(映画学科61年度卒)

高知県の校友会はないのでしょうか？もしかして私ひとりですか？

●川上良絵(映画学科平成3年度卒)

沖縄の離島、宮古島へ移住して早9年、平和に暮らしております。新しい江古田校舎、いつか拝見したいです。浦島太郎の気分になりそうですね！

●武部由子(映画学科平成3年度卒)

2003年5月21日、コロンビア大学大学

院修士(映画学科)卒業以後NYにて映像美術家として(フリー)活動中。

●安達正昭(美術学科37年度卒)

新江ノ島水族館にて深海コーナー解説、江の島観光ガイド、財団法人藤沢市児童クラブで絵画教室を月1回行っている他、ボランティア活動をしています。

●安西水丸(美術学科40年度卒)

イラストレーターとして仕事をしております。最近号の「KIZUNA」で学部長と対談しました。

●五島三子男(美術学科46年度卒)

昨年3月より作家活動一本の生活です。又この4月より横須賀美術協会会長となり、地域美術振興に一役と思って居ります。「蔵と現代美術一響きあう空間」展が小江戸川越蔵屋敷全域で開催されます。(11月)私は、蔵造り資料館の庭・書院を使います。

●草野順子(美術学科52年度卒)

同美術学科、油／版画専攻の人々ととは個展等を通し交流がつづいています。(私は個展などには行いませんが)

●鎌田英明(美術学科63年度卒)

楽しく生活しております。芸術の好きな後輩の人たちが生き生きと活動できることを願っております。

●中村礼子(音楽学科43年度卒)

現在、国際学院短期大学で教授をしています。年令を重ねるごとに芸術学部の学生だった頃、練習室(プレハブでした)で夜、最後まで練習に打ち込んだ青春の日々を思い出します。卒業生であることを誇りに思いながら仕事をしています。

●染谷智子(音楽学科58年度卒)

昨年の芸祭に行ってきました。数十年ぶりの新しいキャンパスと江古田の街

にドキドキ、ワクワクのしっばなしでした。次は娘、息子と行けたらいいなと思います。

●渡邊浩司(音楽学科63年度卒)

郡山の子どもたちは、震災に、放射能に負けず(あまり気にせず)普通に生活しています。どうぞ、福島県に遊びに来て下さい。(郡山市内の中学校の音楽教師より)

●武者裕子(音楽学科平成3年度卒)

先日久しぶりに音楽学科の同窓会に出席させていただきました。駅や大学の変化にただ、ただビックリ!!しました。少し寂しい気持ちになりました。

●伊奈えりか(音楽学科平成10年度卒)

フィレンツェのIL PAPIROという店に務めております。こちらに来て8年になり、イタリア語検定1級を取りました。子供にピアノを教えたり合唱団に入って歌っています。ヨーロッパが近いので仏、スイス、ベルギー、オランダ、スペイン等旅行しております。

●佐藤裕子(文芸学科50年度卒)

3/11の東日本大震災で釜石市も甚大な被害を受けましたが、私は被災を免れました。当時は卓球部に入っていました。仲間からの励ましの電話、メールに人と人のつながりを感じました。ぜひ、再会したいです。

●西尾肇(文芸学科50年度卒)

第5回日芸賞、林真理子さんは、同期生、青山剛昌さんは同郷(鳥取県東伯郡北栄町)ということで何か不思議な因縁を感じます。但し、私自身は創作からは遠ざかり図書館の経営に忙殺されています。尾高先生のゼミでした。

●石川千穂子(文芸学科52年度卒)

学研の「感動する仕事!泣ける仕事」という単行本に、スカイツリーの照明デザイナー等を取材、執筆しています。小、中学生のあこがれの仕事を中心に、シ

リーズ化。今回はその第2弾として2012年2月に発売されます。

●小柳安夫(文芸学科56年度卒)

第5回日芸賞に林真理子さんが選ばれたことを、文芸学科の後輩としてとてもうれしく思います。なお、言葉に言い表わせない悲しみを、このたび東日本大震災では抱くことになりました。被災された皆様に心よりお見舞申し上げます。一刻も早い復興をお祈りいたします。

●渡邊雅昭(文芸学科平成7年度卒)

報告遅れましたが、文芸学科在学中に書いた小説をリライトしたものが第20回船橋市文学賞の小説部門を受賞致しました。のんびりと10年かけて書き上げたものが、受賞して幸いです。今は和食の板前として精進している次第です。なかなか面白いでしょう?

●二瓶長記(演劇学科36年度卒)

生涯、現役のつもりで頑張っています。文化、芸術等による地域づくりをライフワークとしています。

●植村家忠(演劇学科39年度卒)

3年前「第2の夕張」かと新聞紙上へにぎわした高取町の再建に取り組んでいます。前町長の不祥事事件後の後始末で忙しい毎日ですが多額の累積赤字をやっと黒字にする事が出来ました。

●森川武(演劇学科39年度卒)

68才になりました。ペンション始めて23年。大学時代の友人とも、いまでも交友が続いております。大学時代はテレビドラマに出たり演劇に、ショーにとアルバイトをしたことがなつかしいですネ。エノケン・キングロー・森川信さん達が活躍されてる時ですからすばらしい時代を過ごしたなと思っています。

●浅利和子(演劇学科41年度卒)

秋田市に「清和会」という日本舞踊教室を開設してこの6月で3年目に入り(6月の第2回のおさらい、今は自粛し)、

10月2日「東日本大震災復興支援チャリティー文化公演」を開催し、義援金を参加者の連名で県庁にお届けすることにしました。

●小野登志子(演劇学科41年度卒)

先の統一地方選静岡県議会議員選挙で3回目の当選をさせていただきました。また、伊豆の国市にある伊豆市民オペラ協会設立10周年記念公演で私のオリジナル創作オペラ「三百年姫」を今秋上演します。脚本、演出と忙しい。議員も超多忙。

●町田寿二(放送学科34年度卒)

京都の市民の手で開設したNPOによるコミュニティFM放送局は、おかげ様で9年目に入りました。100本をこえる番組はすべて市民自身が思い思いに企画して発信しております。

●二見和男(放送学科44年度卒)

定年(60才)後も契約職員としてアナウンサーを続け、今年で現役生活42年目を迎えています。ここに至る基礎を作ってくれた日芸に感謝です。

●牧野節子(放送学科46年度卒)

児童文学作家をしています。近刊は2011年3月に上梓いたしました。「お笑い一番星」(くもん出版)本のオビに、お笑いコンビ、はんにゃさんの推薦のコメントをいただきました。好評発売中です。

●梅本菜々(放送学科平成20年度卒)

社会人3年目となり様々な仕事をやらせてもらえ充実した日々を送っております。震災で憂い多き世の中ですが、舞台音響という仕事をしている者として、舞台を通じて「生きる事の素晴らしさ・感動」を伝え続けていきたいと思います。

●寺田溪音(放送学科平成21年度卒)

世界不思議発見のADになりました。ミステリーハンターと同行し、アイルランド・マレーシア・台湾・シンガポールに行きました。まだまだがんばります。

「第11回福岡江古田会アート展」開催

5月19日～24日

「友情と芸術の輪を拡げよう…」をモットーに第11回福岡江古田会アート展が5月19日～24日まで福岡アジア美術館で開催されました。東京・埼玉・大阪・長崎・熊本・宮崎の校友の応援を受けて出展者22名、写真73点、絵画22点、工芸37点のそれぞれの思いを込めた132点が集まりました。

昨年好評だった写真機材の展示第二段として、自宅で眠っている8ミリビデオ機器を中心に撮影機、映写機、レンズ、フィルムやそのパッケージなど50種を集めて古き時代を懐かしむコーナーを作りました。

大阪から菅裕介さんがゲームソフト用コンピュータグラフィック、宮崎から後藤欣久さんの細密画、会場では音楽学科出身の筋田典代

さん提供のBGMがゆったりした気分を演出してくれました。また、長崎美術協会会長の木下伸弘さんから椅子のデザイン画を出展いただきました。趣味と実益、写真と絵画、壁面と立体、噛み合わない展示内容にも関わらず、楽しい力作が集まり、友情の輪が膨らみました。

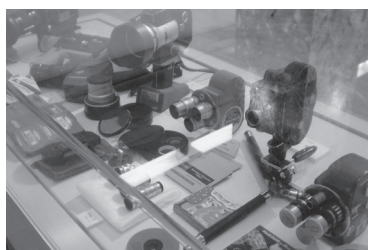
被災後、韓国から船が初入港。その船で来日した西洋人夫妻は原直久さんの上海で撮影した作品を構図、色使い、粒子など細かくチェックして覗き込むように仲良く鑑賞していたのが印象的でした。また、金剛杖に大きなザックを担いで四国巡礼の後、屋久島に渡り来福した横須賀の男性はザックを背負ったまま作品を一点一点丁寧に鑑賞。特に芥川親雄さんの福祿

寿の木彫を興味深く観賞して、とつとつと旅の思い出を語り「楽しい作品頑張ってください」と記帳。これから東長寺の五重塔落成記念会場に行きますと足早に去りました。

今回は会場が8階から7階の奥に変わり、入場者数が昨年より100名ほど減少し500名でした。反省点や失敗などありますが福岡江古田会に入会したいと若手校友が来場してくれたこと、日大校友会県支部へ来年のアート展へ出展を要請したことなど得るものも多々ありました。新しい芽が育ち、江古田会が大きな樹になることへ夢が膨らんだ六日間でした。

アート展実行委員長

飛嶋慶一（S45・写真卒）



第15回福岡江古田会

5月21日(土) 於：平和楼

創立から15年目を迎えた5月21日、平成23年度福岡江古田会総会が、中華料理店「平和楼」で開催された。出席者は会員18名、来賓者は日芸本部、江古田会支部、日大福岡県支部からの7名で、総会は美野田幹事長の進行で始まったが、まず式次第に先立って東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を祈り全員で黙とうをささげた。

会長挨拶では、今年度の取り組みとして会員の江古田会合への積極参加、他支部との交流計画への協力をお願いした。ついで議長団選出では議長に木下雄二郎氏、書記に飛鳥邦子さんを選出して議事進行…。美野田幹事長からの22年度の活動及び会計報告、23年度の事業計画及び予算案の説明があり全員の拍手をもって承認された。

懇親会は、お馴染み岩永隆氏の司会で始まり、野田学部長の挨拶では東日本大震災時の日本大学の

被害状況について説明があり、我が芸術学部は耐震を備えた新校舎がリニューアルしたばかりで建物被害はほとんどなかった由、前学部長をはじめ諸先輩に感謝したいとのことでした。綾部校友会会長からは、本部から大津波にあった太平洋沿岸の青森、岩手、宮城、福岡の江古田会支部に見舞金を送り、支部からはたいへんな感謝の返事をもらったむね報告がなされた。

乾杯の後、歓談に入ったが、会員の皆さん学部長をはじめ来賓の方々とも意気投合、膝つき合わせておおいに話が弾んだようでした。このあとは恒例の福引抽選会、飛鳥慶一、邦子夫妻の司会で、例年通り各自が持ち寄った景品をくじ引きし、当たった順に自己紹介をする趣旨で進行、佐賀の音成、熊本の

奥村両支部長とも紹介の中でお互いに連携を深め、これからも九州全県に江古田会支部を結成させるべく協力したいむね発言がありました。

アルコール片手に、あっという間に予定時間が過ぎ日大県本部の武内氏による博多山笠『博多手一本』でお開きとなったが、今年は例年になく楽しい和やかな懇親会でした。

福岡江古田会

粟村皓司（映画・36卒）



第12回宮崎江古田会総会

6月4日(土) 於：杉の子桃太郎

平成23年度の芸術学部校友会宮崎支部の総会が6月4日(土曜日)ふるさと料理、杉の子桃太郎の間で開催された。総会は長嶺副会長の進行で始まり、次第に先立って東日本大震災で亡くなられた方々にご冥福を祈り全員で黙祷を捧げた。事務局の米倉事務局長より22年度の会計報告、23年度の予算の説明があり会計監査の和田昌弘氏(放送61年卒)から認証、全員拍

手を持って承認された。後藤会長より23年度事業報告が行われ、機関紙宮崎江古田会“どげんしょつと”の発行、福岡江古田会「アート展」出展、親睦会での「ビンゴ」などについて提案が有り、満場異議なく順調に終了した。参加者全員の集合写真を撮影し、懇親会会場「佐土原の間」へ移動し全員落ち着いた所で司会の米倉事務局長から、3月29日逝去された元事務局

会計大健雄三氏に黙祷を捧げました。校歌斉唱後、後藤会長からの挨拶で懇親会が始まり、野田学部長の挨拶では東日本大震災時の日芸の被害状況について説明が有り、本校は耐震を備えた新校舎がリニューアルしたばかりで建物被害は全くなかったとの由、前学部長をはじめ諸先輩に感謝したいとの話でした。乾杯の音頭は井戸川順一氏(放送38卒)の音頭で賑やか

に開宴した。歓談も熱が入った所で恒例の「3分間スピーチ」に入り話が弾んだ。綾部校友会会長からは本部から大津波に遭った青森、岩手、宮城、福島の前江古田会支部に見舞金を送り、各支部より感謝の返事を頂いたとの報告がなされた。宴もたけなわな所で一次会を締めることにな

り、今回 11 年ぶりの出席となった井上剛氏（美術 49 卒）から三本締めで終宴となった。今年の総会、懇親会は 13 名ではあったが、例年になく楽しく、意義ある総会となったことを感謝しております。

宮崎江古田会会長
後藤欣久（美術 44 卒）



山形江古田会総会（設立20周年記念）

6月18日（土） 於：山形グランドホテル

今年は、藝術学部校友会山形県支部（山形江古田会）設立 20 周年を記念し、次の通り特別な内容の特別な 6 月 18 日（土）になりました。

◎山形江古田会設立 20 周年記念「野田慶人先生講演会」

演題：テレビ CM の発想について
午前 11 時から午後 0 時迄、日本大学山形高等学校第一体育館を会場に開催されました。授業の一環で「先輩学講座」として開講されました。

野田先生の自己紹介「見た目はワイルド、実際はマイルドな男です」と、CM 的なキャッチフレーズから始まりました。学習期から模索期（1950 年～ 60 年代）のテレビ CM について実際の映像を交えながら話は進みます。時間の制約があり「この続き、今のテレビ CM について話を聞きたい人は日大藝術学部に入學してください」で終了しました。3 学年生徒をはじめ、教職員、校友会会員ら約 450 人が聴講しました。

◎日大藝術学部映画学科制作「夜間中学」上映会

午後 5 時から 5 時 50 分迄、山形グランドホテルで総会に先立ち、総会出席者を対象に上映会を開きました。

昭和 31 年に公開されたモノクロの「夜間中学」は、映像はもちろん全てが丁寧に積み上げられた、珠玉の一作でした。日本の、日本人の美しさや、その精神性の高さを確認させられたひと時になりました。

◎藝術学部校友会山形県支部

（山形江古田会）平成 23 年度総会
午後 6 時から山形グランドホテルで開催されました。

来賓として、野田慶人藝術学部長、綾部東洋子藝術学部校友会会長、伊藤剛日本大学校友会山形県支部長、加藤賢一法学部校友会山形県支部長、片山款郎経済学部校友会山形県支部長代理、小松公博歯学部校友会山形県支部長、日本大学山形高等学校からは近藤博七校長、

大沢辰夫事務長、庄司晃経理長の方々をお招きしました。会員 18 名の参加と、在学生保護者の参加もあり賑やかに開会しました。会計決算報告があり承認された後、迅速に閉会しました。

引き続き、同会場で皆さんお待ちかねの懇親会が開会されました。今年は出席者が多く、平成年度卒業の会員も数多く加わり、楽しく、明るく、元気よく、会は進行しました。時間の速さを感じながら中締め閉会となり、ほとんどの会員が二次会へと進みました。そして、三次会へと。

山形の経済活動活発化にも貢献した、素敵な一日になりました。

支部長 横倉晋也
（美術・昭和 52 年度卒）



第5回秋田江古田会総会

6月23日(木) 於：イヤタカ

秋田江古田会は、第5回総会を6月23日(木)午後6時から秋田市のイヤタカで開きました。

総会には、会員7名と芸術学部校友会の綾部東洋子会長が出席しました。今回は、会社の人事異動や急な出張などで参加できなかった会員がおりましたが、新たに由利本荘市出身で旅行会社などを経営している橋本興志紀さんが参加してくれました。

田宮会長は、「総会には、できるだけ多くの方が参加しやすいように努めたい。東日本大震災では、岩手・宮城・福島などの江古田会会員の状況は詳しくわからないが、なんらかの影響を受けたものと推察されお見舞い申し上げます。秋田江古田会として AKT 秋田テレビを通じて

義援金を送った」と述べました。

議事では、平成22年度の事業・収支決算報告と今年度の事業・予算を承認、監査員を1名とする規約改正をしました。任期満了の役員については全員留任とし、新たに渡部肇(放送66卒)を選任しました。

引き続き懇親会を開き、来年度は秋田会発足満五年となるので何らかの事業を行いたいなど和やかな中にも今後の活動について話ができました。

また、浅利香津代副会長より「東日本大震災復興支援チャリティ文化公演」を行いたい

ので、秋田会の支援・後援をお願いしたいとの申し出がありました。

橋本興志紀さんは、ルーマニアへ送る日本の本を集めているので協力して欲しいと話していました。

田宮 忠



第3回ふくしま江古田会総会

5月22日(日) 於：珍満

ふくしま江古田会第3回総会は5月22日、郡山駅前の中国料理「珍満」で開催された。出席23名、来賓は

校友会副会長豊島紘武様、校友会常任幹事高松豊様、日大校友会福島県支部幹事長加藤木研様、同副幹事長大越努様の4名。神山靖範事務長の開会挨拶に続いて島崎恒夫会長が挨拶した。

その中で会長は「本年は大地震と津波に襲われた天災の年であり、続く原発の原子炉爆発、放射能、

風評被害といった人災に脅かされている。この現状と復興への軌跡を会報に残したい」と述べた。

そして野田学部長と綾部校友会長からお見舞いの言葉を頂いたこと、校友会からお見舞い金を頂いたことを報告した。

瀬谷京子さんを議長に選んだあと議事に入り、事業と決算の報告を承認し、大震災特集の会報を発行し全国のニチゲイ同人に「がんばっぺ福島」のメッセージを届ける事業案と予算案を議決した。

任期満了による役員改選では、現役員の留任案が可決された。

この後、いわき市で夕刊紙「いわき民報」を発行している会員の野沢



達也さん（放送学科卒）から東日本大震災の体験談「3・11 その時いわきは・・・」を拝聴した。自らも被災者。しかし報道人として瓦礫と化した町々で目撃した天災と人災の傷痕、市民の困惑、行政の対応の遅れ

に怒る港町漁民の表情等を連日記事にまとめ市民に届けた。そんな中、放射線量を恐れ町々を離れる家族が続出し、購読者が減り、配達人も揃わず新聞を一時休刊せざるをえなかった悔しさを滲ませた体験談で

あった。

懇親会では中国料理7品コースと美酒の飲み放題。出席者の一分スピーチで自己紹介が面白、可笑く語られた。

会長 島崎恒夫（映・32卒）

青森江古田会総会・被災地八戸で開催

7月3日（日） 於：ユートリー

青森江古田会の総会は昨年から4月に開催していたが、今年はその日程の調整中に東日本大震災が起きた為、開催日を決めかねていた。今回の大震災では、青森県も大変な被害を受けたので、青森江古田会では被害が大きかった太平洋側に住む会員の被災状況を知るためアンケート調査を実施した。返信をいただいた限りでは大きな被害は受けずに済んだようだったので、余震の収まるのを待って7月に開催することにした。ただし震災被害地である八戸地域在住の会員のことを考慮し、例年の青森市から八戸市に会場を移し、八戸の会員へのお見舞いの気持ちを込めての「震災支援特別総会」として開催することにした。

こうして、平成23年度の青森江古田会の総会は23年7月3日、JR八戸駅に隣接する八戸地域地場産業振興センター「ユートリー」で

開催された。

出席は、来賓が綾部東洋子校友会会長、会員が9名、ゲスト出席は荒井宏さん（放送40年卒）で、合計11名のコンパクトな総会となった。

第一部の総会は高坂進事務局長の司会で進められ、冒頭、綾部東洋子会長からご挨拶を頂いた後、高木保支部長が事業や収支決算を報告、続いて議事の審議に入り、収支決算など異議なく順調に審議を終了した。記念撮影をした後、引き続き行われた第二部の懇親会では、東京からかけつけた豊島紘武さん（演劇40年卒）の音頭で乾杯し会食となった。会場には「日芸・今昔写真集」のDVDが流れる中、二部の司会は鈴木義勝さん（美術50年卒）が担当。参加者が少なかったことで、会場は参加者全員が顔の見える席順となり、八戸名物の「せんべい汁」に舌鼓みをうちなが

らの自己紹介が始まる。家族の団欒のような気楽な雰囲気の中で進行した。八戸に本社を置く新聞社勤務の岩村雅裕さん（映画52年卒）が仕事からみの地震と津波の臨場感あふれる体験談を披露、又、タレントの十日市秀悦さん（映画52年入学）が、たまたま八戸の実家に滞在して体験した地震と津波の事柄を、八戸訃りでコミカルに語る恐怖を笑いで味付けしたスピーチで会場を沸かせた。最後は上崎正副支部長の中締めでお開きとなった。

総会終了の数日後、綾部東洋子会長から「人数は少なかったけれど、じっくりおしゃべり出来て楽しい総会でした」と、お便りをいただき感謝している。

楽しい総会に更に一人でも多く参加してもらえよう、来年へつないでいきたいと考えているところだ。



佐賀は、ガバイ 10 周年！

7月8日(金) 於：旅館あけぼの

佐賀江古田会総会“佐賀江古田祭り”を、7月8日、佐賀市の旅館「あけぼの」で行いました。

今年は、江古田会として10回目、芸術学部佐賀校友会から数えると25年という節目の総会となり、野田学部長、綾部校友会会長をはじめ福岡・熊本の江古田会からもお越し頂き、出席者一同、改めて25年の歳月を噛みしめました。佐賀では総会時毎回会員の講話を行います、今回は、佐賀出身の戦場カメラマン「一ノ瀬泰造(写真44)」を取り上げた番組を鑑賞、校友・一ノ瀬氏の偉業を偲

びました。

また、席上、綾部会長からは「江古田会10周年ということですので、記念のイベントをやって下さいでなく、小規模でもいいから何かやりなさい」と宿題をもらい、会長以下頭をひねっています。

総会後は佐賀市内に繰り出し、お酒の力をもらいながら今後の活動と親交を深め、猛暑

の夜は過ぎて行きました。

佐賀江古田会事務局
土井 洋(写真49)



26 回目の熊本江古田会総会

7月9日(土) 於：熊本交通センターホテル

熊本江古田会は今年26回目の総会を7月9日(土)に、いつもの熊本市内のホテルで開催しました。今年も前日の佐賀江古田会に引き続いたの総会になりました。総会では去年の25周年企画展や中村獅童氏のトークショーが無事実施できた事を

報告、また九州の各江古田会への出席、県内の各学部支部総会に出席したことも、あわせて報告しました。そして役員改選では、新副会長に穀本純二氏(写真)を、新事務局長に、川村晃生氏(演劇)を、これまでの事務局長の福田一司氏(写真)を新

しく設ける幹事長に就任することを決めました。ほかの役員は留任。

このあとの懇親会には、来賓と会員あわせて22人が参加。そして野田学部長と校友会の綾部会長から、大学と学部の報告をいただきました。懇親会は、いつものように、約2時間楽しいときを過ごしました。今回は福岡江古田会の粟村会長と佐賀江古田会の松本副会長にもご参加いただきました。

また今回は福岡江古田会から、九州の各江古田会のメンバーが熊本に集まり阿蘇などに泊まって、撮影やスケッチなどを楽しみ、各メンバーとの親睦をはかるという、ご提案について、熊本江古田会も積極的に参加、協力することもあわせて了承しました。九州以外の方も大歓迎です。

熊本江古田会
会長 奥村隆志



平成23年度北海道江古田会総会が、平成23年7月23日(土)午後6時半より、来賓に綾部東洋子芸術学部校友会会長、野田慶人芸術学部長をお迎えし、東京ドームホテル札幌で開催されました。

総会では支部長の挨拶の後、原議長のもと中山事務局長より22年度事業報告、23年度事業計画案について説明があり承認されました。併せて22年度事業決算、23年度予算案について説明があり、石井監査より監査報告を頂き承認されました。また会長より事務局長の交代について。支部長会議の出席に伴う内規の運用について。事務局長の連絡事務費補助についての提案があり承認されました。

成田フォトコマーシャル(写真卒)の記念写真撮影の後、氏家曹一(放送卒)、斗澤由香子(放送卒)の司会により、日大校友会札幌支部長代理の是安正之様の乾杯で懇親会がスタート。来賓挨拶では二期目を担う綾部東洋子芸術学部校友会会長より、校友会の現状についてのお話や「アートフェスティバル北海道」の評価を頂き大変嬉しく思いました。野田慶人芸術学部長からは3.11大震災を境にした芸術学部の現状について話され、「頑張れ日芸」の思いを強くしました。

今年も会員による特別演奏を企画し、バンドネオン奏者の小川紀美代(音楽卒)さんを迎えました。彼女は数少ない女性奏者として日本で活躍されています。「バンドネオンの息遣いが心に伝わって来ました」との感想が聞かれました。

福を呼ぼうと行っているスクラッチタイムですが「今年こそ!」の思いは残念ながら叶いませんでした。しかし、坂一俊校友会札幌支部長より贈られた、坂ビスケットの詰め合わせセットを頂きジャンケン戦では、私は一回戦で敗退しましたが、水野正純(写真卒)さんは見事勝ち抜きました。楽しい時間は瞬く間に過ぎ、ビデオに映る旧校舎を観ながらあの青春蘇る懐かしい一時、こんな時間が共有できる幸せ、日芸校友

会バンザイです!

お忙しい中駆けつけてくれた来賓の皆様、浅利徹札幌日本大学学園理事長、加藤欽也校友会札幌副支部長、櫻井政経道都大学長、伊藤茂樹北海道桜師会副会長、中澤茂樹角笛会事務局長。そして私たちの仲間、羽深幹さん(桜法会)の各位に心からの感謝とお礼を申し上げます。最後に宇藤潔北海道桜法会会長の締めによりお開きとなりました。平成の若者達、ギタリストの竹形貴之君(音楽)、STVの谷口由美さん(放送)来年も若いエネルギーをこの会に注いでください。再会を期して。ありがとうございました!

北海道江古田会会長
蓬田秀泰(音楽42年卒)



学科ニュース

写真ブロック



- 高校生のためのワークショップ開催 7月23・24日。
- 写真甲子園 2011・東川フォトフェスタ バックアップ 7月26日から31日。
- JENESYS プログラムで学生3名

と教員1名を選考により東ティモールに派遣。現地で写真展開催および同国ラモズルタ大統領が接見 8月1日から10日。

- 読売写真教室開催 8月27・28日。

映画ブロック



- 「フォーカスイン '2011」
平成22年度卒業制作、映画演出Ⅲ／映画技術Ⅲによる作品上映会「フォーカスイン '2011」が、平成23年6月26日～7月3日までの期間、江古田校舎東棟EB-2教室で行なわれました。63作品が上映され、のべ700名余りが来場し盛況のうちに幕

を閉じました。

- 平成23年度オープンキャンパス
今年度のオープンキャンパスは平成20年7月18日の海の日に江古田校舎で行なわれました。映画学科では、公開講座や作品上映、入試相談が行われ、多くの受験生が来場しました。

美術ブロック



- 柳瀬荘アート・教育プロジェクト
Ⅰ期：10月6日（木）～30日
Ⅱ期：11月3日（木）～27日（日）

- 10：00～16：30 木～日のみ開催
アーティストトーク
10月30日（日）、11月27日（日）
14：00～16：00
○ 北野生涯教育振興会受賞者展
11月14日（月）～25日（金）
9：30～
江古田校舎・芸術資料館他
○ 正親優哉彫刻展

- 11月15日（火）～20日（日）
ギャラリー kingyo
12：00～19：00
○ 「越後妻有の林間学校 2011 秋」
10月8日（土）～10日（月・祝）
ワークショップ
詳しくは <http://www.echigo-tsumari.jp>

音楽ブロック



平成23年度音楽学科主催演奏会は、次の通りです。いずれも入場無料です。お気軽にご来場ください。

- 第104回定期演奏会
於：練馬文化センター小ホール

- 10月14日（金）
17時30分開場／18時開演
＜出演者＞
ピアノ：日高麻子、黒田恵、
里村亮祐
バリトン：大津康平
ソプラノ：根本紘子
作品発表：小池和俊
ヴァイオリン：山之内美和
打楽器：中島若菜
トランペット：石井恵美

- ソプラノ：浅沼美穂、高橋薫
ピアノ：渋谷ひかり、菊地亮太
● 第47回室内楽のタベ
於：練馬文化センター小ホール
10月17日（月）
17時30分開場／18時開演（予定）
9月末に行われる室内楽学内演奏会において、優秀であった団体による演奏会です。
● 第105回定期演奏会
於：練馬文化センター大ホール

10月24日(月)
 17時30分開場／18時開演
 <演奏曲目>
 ベートーヴェン：歌劇「フィデリオ」序曲
 ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第1番ハ長調 (Pf.：谷亜矢子)
 トマジ：サクソフォーン協奏曲 (Sax.：渡辺定路)
 モーツァルト：オーボエ協奏曲ハ長調 (Ob.：鹿又寒太郎)
 ロッシーニ：スターバト・マーテルより“嘆き憂い悲しめる御魂は” (Ten.：佐藤圭)
 プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」より“私の名はミミ” (Sop.：小山百合恵)
 アルチュニアン：トランペット協奏曲変イ長調 (Tp.：鈴木翔太)
 ○指揮 今泉 久
 ○演奏 日本大学芸術学部管弦楽団
●第23回ウインドオーケストラ定期演奏会
 於：練馬文化センター大ホール
 11月22日(火)
 18時開場／18時30分開演
 <演奏曲目>
 ハンソン：コラルとアレヤ
 グレインジャー：リンカンシャーの花束

エレビー：バリ・スケッチ
 デ・メイ：交響曲第2番『ビッグ・アップル』(ニューヨーク・シンフォニー)
 ○指揮 大木孝雄
 ○演奏 日本大学芸術学部音楽学科ウインドオーケストラ
●第40回ピアノコンサート
 於：練馬文化センター小ホール
 11月28日(月)
 15時開場／15時30分開演
 本学ピアノコースの学生による選抜演奏会です。
●第106回定期演奏会
 於：練馬文化センター大ホール
 12月1日(木)
 18時開場／18時30分開演
 <演奏曲目>
 サン＝サーンス：交響詩「ファエトン」作品39
 シャプリエ：狂詩曲「スペイン」
 メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲ホ短調作品64 [Vn.独奏 戸澤哲夫]
 ドボルザーク：交響曲第6番
 ○指揮 矢崎彦太郎
 ○演奏 日本大学芸術学部管弦楽団
●第42回オペラ公演
 於：練馬文化センター小ホール
 12月8日(木)

18時開場／18時30分開演
 <演奏曲目>
 ドニゼッティ：愛の妙薬 ハイライト
 ○指揮 江上孝則
●第32回新作室内楽の会
 於：芸術学部音楽小ホール
 12月16日(金)
 18時開場／18時30分開演
 提出作品より選抜された演奏会です。
●大学院修了演奏審査会〔ピアノ・声楽〕
 於：芸術学部音楽小ホール
 12月17日(土)
 開場／開演時刻未定
●平成23年度大学院修了演奏会
 於：練馬文化センター小ホール
 平成24年3月15日(木)
 開場／開演時刻未定
 大学院修了演奏審査会において優秀であった大学院生の演奏会です。
●平成23年度卒業演奏会
 於：練馬文化センター小ホール
 平成24年3月21日(水)
 開場／開演時刻未定
●平成23年度卒業論文要旨発表会
 於：芸術学部音楽小ホール
 平成24年3月21日(水)
 開場／開会時刻未定
 卒業審査において優秀であった学生の論文発表及び演奏会です。

文芸ブロック



●文芸学科生が集英社コバルト文庫ノベル大賞佳作受賞して作家デビュー
 2011年1月12日、集英社コバルト文庫2010年度ノベル大賞が発表され、656編の応募作の中か

ら、文芸学科3年生・ペンネーム：御永真幸(みながまさゆき)の『ただここに降りしきるもの』が佳作に選ばれました。デビュー第一作『無音の哀戀歌 ～さようなら、わたしの最愛～』は7月30日に集英社コバルト文庫から発刊されています。在校中にデビューした新たな若き書き手の活躍に期待しましょう！
●藤井正弘先生ご逝去
 昭和46年度から平成18年度ま

で、36年の長きにわたって「編集演習」「編集研究」などの授業をご担当されていた藤井正弘先生が、去る2011年8月1日、80歳でご逝去されました。編集の技法を先生から学ばれた校友も数多くいらっしゃると思います。藤井正弘先生、本当にありがとうございました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

演劇ブロック



◇後期実習発表スケジュール

平成23年度後期も所沢校舎・江古田校舎におきまして、さまざまな実習発表及び卒業制作公演を実施いたします。校友の皆様方のご来場をお待ちしております。尚、各発表に関しましては、インターネットからの事前予約が必要です。詳しい予約スケジュール及び予約方法に関しましては、演劇学科ホームページ

<http://theatre.art.nihon-u.ac.jp/>でご確認ください。

※タイトル及び詳しい内容は演劇学科ホームページでご確認ください。

※○＝江古田校舎 ●＝所沢校舎

●舞台総合実習ⅡD(洋舞)

・創舞指導：加藤みや子・松永雅彦
・10月14日(金) 14:00(A) 18:00(B)
15日(土) 13:00(B) 17:00(A)
・所沢校舎 アートセンター・ブ

ラックボックス

○舞台総合実習ⅤA(演劇)

・学生演出
『クロールの方法(仮)』
・10月28日(金)～30日(日)
・江古田校舎 小ホール

○舞台総合実習ⅣD(洋舞)

・創舞指導：松永雅彦
・11月11日(金) 18:00
12日(土) 13:00／17:00
・江古田校舎 中ホール

○卒業制作(演劇)

・学生演出
『人形の家(仮)』
作：ヘンリック・イブセン
・11月16日(水)～18日(金)
各日18:30

19日(土) 14:00／18:30

20日(日) 13:00

・江古田校舎 小ホール

○舞台総合実習ⅣA(演劇)

・作/演出：川村毅
『ニッポン・ウォーズ(仮)』
・11月25日(金)～27日(日)

・江古田校舎 中ホール

●舞台総合実習ⅡC(日舞)

・創舞指導：藤間恵都子
『遠き神よ微笑み給へー竜神村に

伝わる伝説よりー』

・12月3日(土) 13:30／16:30
・所沢校舎 アートセンター・ブ
ラックボックス

○卒業制作(演劇)

・学生演出
『わが町』
・作：ソートン・ワイルダー
・12月9日(金) 17:00
10日(土) 16:00
11日(日) 13:00

・江古田校舎 中ホール

●舞台総合実習ⅡA(演劇)

・演出：桐山知也
『春のめざめ(仮)』
・作：フランク・ヴェデキント
・12月15日(木)～17日(土)
・所沢校舎 アートセンター・ブ
ラックボックス

○卒業制作(洋舞)

・創舞指導：加藤みや子
・12月16日(金) 18:00
17日(土) 13:00／17:00

・江古田校舎 中ホール

○卒業制作(日舞)

・創舞指導：花柳昌太郎
『結ー(むすび)ー』
・12月23日(金)・24日(土)

放送ブロック



■「ギャラクシー賞受賞作 制作者と語る会」のご報告

4月23日、江古田校舎E101教室にて、NPO法人放送批評懇談会ギャラクシー賞選奨委員会(テレビ部門)主催、放送学科後援による「ギャラクシー賞受賞作 制作者と語る会」地域発 テレビ・エンタテインメント』が開催されました。ゲストには、第47回ギャラクシー賞優秀賞『ミエヒ』(HTB北海道テレビ放送)の藤村寿監督と、個人賞『鶴瓶のスジナ

シ』(CBC中部日本放送)の小森耕太郎プロデューサーをお迎えし、司会はギャラクシー賞テレビ部門副委員長で本学の講師でもある川喜田尚さんが務めました。受賞作の2番組を上映し、お二人には番組作りへの熱い思いを語っていただきました。会場には芸術学部の学生だけでなく、一般からの参加者も集まり、番組を通じて地域から発信するメッセージをしっかりと受け止めました。

■公開講座「テレビ報道に問われること」のご報告

H23年度日本大学芸術学部江古田校舎公開講座「テレビ報道に問われることー大震災・原発事故とテレビーfrom3.11」が、日本大学芸術学部主催、練馬区教育委員会共催の下、6月29日、7月6日、13日の3週にわたり

E101教室で行われました。各回を放送学科の専任教員と講師の先生で担当しました。講座内容は、6月29日：「伝える側が背負うもの」～東日本大震災とテレビ～ 講師＝高村裕先生(ニュース分析Ⅱ)、7月6日：「記者たちの眼差し」～「停波」の危機と向き合いながら～ 講師＝岩城浩幸先生(放送報道論)、7月13日「ソーシャルメディアとテレビ報道」 講師＝兼高聖雄先生(放送概論)というものでした。東日本大震災以来、報道に問われることや求められるものが高まる中、これからのテレビ報道について検証し、考えてみたいという受講生が一般からもたくさん集まりました。

■講演会「テレビメディアについて考える」のご報告

練馬区教育委員会主催、放送学科共催による講演会「テレビメディアについて考える～番組制作をとおして学ぶこと～」が、8月5日に江古田校舎EB1教室で行われました。練馬区教育委員会の情報教育推進事業として開催されたこの講演会は、6月25日から7月30日にわたって練馬区の中学生を対象に行われた「平成23年度情報番組制作ワークショップ」と連動しており、このワークショップでは中学生たちに「練馬区から元気の素を発信する」というテーマで番組を制作してもらいました。完成した番組を上映しながら、子どもたちの番組制作を指導した鈴木康弘先生から、社会へ目を向けること、情報リテラシーを身につけることの大切さについて講演がありました。ワークショップに参加した中学生とその関係者の方々、その他一般の練馬区民の方々にも参加していただ

きました。

■第23回「BtoB広告テクノコピー賞」受賞のご報告

ハイテク時代の製品から環境にやさしい製品を「課題」に、広告表現のアイデアをコピーで競う「BtoB広告テクノコピー賞」(主催：社団法人日本産業広告協会)で、816点の応募作品の中から山本明広さん(3年)の作品「できるやつは空気が読める！」が「山武 課題企業賞」を受賞しました。この作品は、株式会社 リークディテクターⅡ」を取り上げたもので、同協会のHP(iaaj.or.jp)に作品が公開されています。

■「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、語り合う会 Vol.14」のご報告

10月2日、NPO法人放送批評懇談会ラジオ選奨委員会主催、放送学科協力による「ギャラクシー賞入賞作

品を聴いて、語り合う会 Vol.14」が江古田校舎南棟地下1Fの録音スタジオAにて開催されました。第48回ギャラクシー賞ラジオ部門で優秀賞を受賞した『FMシアター 薔薇のある家』(NHK)のディレクター江澤俊彦さんと、同じく優秀賞を受賞した『ゴールデンアワー』(エフエム沖縄)のアナウンサー西向幸三さんをゲストにお迎えし、作品試聴をしました。

試聴を終えて、ゲストのお二人から制作に当たってのお話をしていただき、参加者からも昨今のラジオドラマの制作現場の様子についてや、沖縄という土地柄とラジオの関係についての質問など活発な意見交換がされました。会場には芸術学部学生だけでなく、一般からの参加者も集まり、放送学科のスタジオ環境を知ってもらう良い機会にもなりました。

デザインブロック



●デザイン学科の深谷基弘教授、木村政司教授、桑原淳司教授が華梵大学(台湾)で特別講義

平成23年度日本大学芸術学部海外学術交流の一環として、4月11日から4月15日まで深谷基弘教授が、5月2日から5月5日まで木村政司教授と桑原淳司教授が、台湾の華梵大学芸術設計学院にてそれぞれの専門分野に関するテーマの講演と学術交流を行う。

●デザイン学科OBによるグループ展「CD卒業生2人展」を開催

5月30日から6月18日まで、デザイン学科コミュニケーションデザインコースOBの田頭慎太郎さんと玉置太一さんによる展覧会が江古田校舎のA&Dギャラリーにて開催される。

●桑原淳司教授の個展「A Boy in My Mind私の原風景」を開催

6月20日から6月30日まで、デザイン学科の桑原淳司教授が、自身の幼い頃の原風景や原体験を描いた192点のスケッチを江古田校舎のA&Dギャラリーに展示。

●黒岩武史さんが「第3回JPCAデザイン・アワード」で準グランプリを受賞

社団法人日本電子回路工業会が主催する展示会のポスターコンペの受賞者が発表となり、デザイン学科コミュニケーションデザインコース3年の黒岩武史さんが準グランプリ、本学大学院造形芸術専攻1年の永田泰佑さんが優秀賞を受賞。

●藤平奈央さんが「AACポスターコンペティション2011」で最優秀賞を受賞

株式会社アーバネットコーポレーション主催の「アート・ミーツ・アーキテクチャー・コンペティション(AAC)」で、139点の応募作品の中から、コミュニケーションデザインコース2年の藤平奈央さんの作品『平面から立体へ』が最優秀賞に選ばれる。

●研究室スタッフの織田有紀さんがブ

ログでデザイン学科の活動を紹介

所沢校舎のデザイン学科研究室スタッフの織田有紀さんがデザイン学科生や研究員の活動をブログで紹介。

○デザイン学科研究室ブログ

<http://nu-design-staff.tumblr.com/>

○建築デザインブログ

<http://nu-design-ad.tumblr.com/>

●「時計」 interaction design workshop 展を開催

7月29日から8月6日まで、インタラクティブデザイン教育に関する実験プロジェクトとして、日本大学芸術学部デザイン学科の教員および学生によって構成されたワークショップグループの活動成果を江古田校舎のA&Dギャラリーで発表。コミュニケーションデザインコースの演習科目「コミュニケーションデザインⅩ」の履修者に加え、山元史朗講師によるゼミのメンバー、デザイン学科各コースからの有志学生および教員が参加し、そのワークショップの成果として制作した「時計」と、実際に行なわれたワークショップのドキュメントを展示。

校友会だより

校友会のホームページがリニューアルされました。

今回、ホームページに「校友達の活躍」のコーナーを設けました。

校友の皆様が開催される個展やギャラリーのご紹介を致します。

HPに掲載ご希望の方は日本大学芸術学部校友会までご連絡ください。

電話 03-3554-5363 メールアドレス ekoda.koyu@gmail.com

前回の会報86号において「探しています」ということで旧校舎の写真を募集致しましたところ、懐かしい写真などが多数あつまりました。

これから芸術祭に向けて写真展示などの計画を進めてまいります。

どこかにあなたの青春が見つかるかも知れません。

どうぞ芸術祭におはこびいただき、校友会室をのぞいてください。

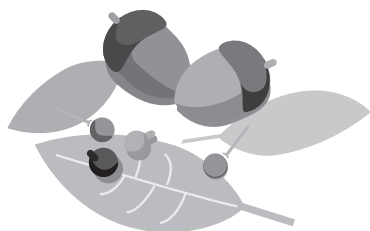
写真をご送付、ご寄付していただいた校友の皆様、本当に貴重な資料をありがとうございました。



日本大学芸術学部 江古田キャンパス整備事業募金報告

総額 ￥ 210,902,651

ありがとうございました。



芸術祭のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。
ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。

(株)スピーチ・バルーン▶1985年、
スタジオ・マイの出版部門として発足。絵本、コミック、アニメ他、企画本の制作、出版プロデュースを主とし、グループ5社の進行管理を担う。また、各種イベントの企画・構成・プロデュースなども行っている。

(株)スタジオ・マイ ☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン ☎03-5999-6911

design: スタジオ・マイ

編 集 後 記

3月11日の東日本大震災で起きた津波の傷も癒えぬさなか、9月には台風12号による紀伊半島豪雨が水の恐ろしさを刻みつけていきました。被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。全国にいる校友の皆さまの日々の生活が健やかなものであることを祈念しております。

(青木)

8つのアート1つのハート

N O U
Nihon University College of Art

A r t

日本大学芸術学部校友会報・第87号

2011年秋号 ●平成23年10月発行●

- 編集人 会報編集委員会
- 発行人 綾部東洋子
- 広報担当 鈴木孝史 今泉久 青木敬士
小林直弥 金龍郎 木村政司

- 発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部に
電話 (03) 3554-5363
事務担当 北島 留美子

- 印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-40-10
三翔ビル本郷
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表 紙
美術学科
越後妻有の林間学校一夏
「ASSATTE CUP」優勝の1コマ
日比野克彦ワークショップにて

2012年度一般入学試験〈第1期〉・〈第2期〉日程

I 一般入学試験諸日程〈第1期〉(募集人員376名)

学科及び 募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (43)	1月31日(火)	1月31日・2月1日 (火・水)のみ 窓口受付	2月7・8日(火・水)	芸術学部 江古田校舎	2月16日(木) 13:00	3月1日(木)
美術 (30)			2月7・8日(火・水)		2月16日(木) 13:00	
音楽 (45)			2月7・8・9日(火・水・木)		2月16日(木) 13:00	
放送 (54)			一次 2月7日(火) 二次 2月10日(金)		一次 2月9日(木) 14:00 二次 2月16日(木) 13:00	
デザイン (40)			2月7・8日(火・水)		2月16日(木) 13:00	
映画 (64)	2月7日(火)	2月7・8日 (火・水)のみ 窓口受付	2月14・15日(火・水)		2月23日(木) 13:00	3月8日(木)
文芸 (60)			2月14日(火)		2月23日(木) 13:00	
演劇 (40)			2月14・15日(火・水)		2月23日(木) 13:00	

- ※ 一般入学試験に関する〈第1期〉各期日はすべて2012年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2012年1月8日(日)、一般入学試験〈第1期〉の入学手続きは二段階手続方式が可能。
二段階方式の最終入学手続期限は2012年3月26日(月)とします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 1月30・31日、2月6・7日(いずれも月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00～16:00)
- ※ 1月31日・2月1日、2月7・8日(いずれも火・水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00～16:00)

II 一般入学試験諸日程〈第2期〉(募集人員58名)

学科及び 募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (5)	全学科 2月28日(火)	2月28・29日 (火・水)のみ 窓口受付	3月6・7日(火・水)	芸術学部 江古田校舎	3月15日(木) 13:00	3月26日(月)
映画 (10)			3月6・7日(火・水)		3月15日(木) 13:00	
美術 (5)			3月6・7日(火・水)		3月15日(木) 13:00	
音楽 (6)			3月6・7日(火・水)		3月15日(木) 13:00	
文芸 (10)			3月6日(火)		3月15日(木) 13:00	
演劇 (7)			3月6・7日(火・水)		3月15日(木) 13:00	
放送 (12)			一次 3月6日(火) 二次 3月9日(金)		一次 3月8日(木) 14:00 二次 3月15日(木) 13:00	
デザイン (3)			3月6日(火)		3月15日(木) 13:00	

- ※ 一般入学試験に関する〈第2期〉各期日はすべて2012年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2012年1月8日(日)、入学手続期限は2012年3月26日(月)とします。
一般入学試験〈第2期〉に関しては一括での手続きとします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 2月27日・28日(月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00～16:00)
- ※ 2月28日・29日(火・水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00～16:00)